学校だより

翔　　空

№３９　平成２４年　２月　７日（火）
郡山市立喜久田中学校長　大堀　昌弘

「翔空（しょうくう）」の由来　〈校舎のシンボル〉

壁画「空へ」を受け、風光明媚（ふうこうめいび）なこの学舎（まなびや）から、**希望に燃え限りない空へ、力強く翔んでほしいという願い**を込めて、翔空の碑ができた。

［著名な古典の一節］

前回から著名な古典の一節を紹介しています。
今回は、『方丈記』（鴨長明作）からの出だしの一節からです。

［原　文］
ゆく河のながれは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつむすびて、久しくとどまりたるためしなし。世の中にある人と栖（すみか）とまたかくのごとし。

［現代語訳］
河の流れは絶えることなく一見同じものに見えはする。しかし、流れる水は瞬時も同じ所にとどまってはいない。流れの淀みに浮かぶ水の泡も一見同じものに見えるものの、実は消えたり生まれたりの変化を繰り返している。この世にあり続けている人間とその住居も、実態はこの河の水や泡と同じように絶えず入れ替わっているのだ。

※　どうですか。世の中の無常を切々と訴えた名文を味わうことで、この世で一切変わらないものというのは存在しないということを実感しませんか。

「約１ヶ月半となりました」

～きちんとした引継ぎをお願いします～

先週は、本校でもインフルエンザ罹患者が増え、多いときには、合計で１４名にまでのぼりました。（内１２名が１年生と、１年生に集中しました。）手洗い・うがい、マスクの着用、窓の開閉による換気、さらには加湿器の使用など予防を徹底して指導してまいりました。ご家庭のご協力もあり今週は多少下火になってきています。（月曜日、インフルエンザによる欠席２名）でも、まだまだ安心できません。学校としても、３年生が本番（Ⅱ期）の願書提出なども控えているので、広がらないよう配慮してまいります。

学校内の活動の様子を紹介しますと、１・２年生中心の生徒会が動き出しています。昨日は、奉仕部の反省を行い、今後、生徒会総会、さらには３年生を送る会の準備へと進んでいきます。一方、３年生は、登校日も２５日あまりとなり、残すは私立一般と県立のⅡ期入試、そして中学校生活をしめくくる卒業式となりました。毎年、この時期になるとなぜか感慨深いものがこみ上げてきます。そろそろ卒業式の校長式辞も考えようと案を練り始めました。ぜひ感動的な卒業式にしたいものです。

いつもこの時期に卒業生に向けて紹介する詩があります。かの有名は**高村光太郎の「道程」**です。改めて掲載しますのでじっくりと味わってみてください。

道　程

僕の前に道はない
僕の後ろに道は出来る
ああ、自然よ
父よ
僕を一人立ちにさせた広大な父よ
僕から目を離さないで守る事をせよ
常に父の気魄（きはく）を僕に充たせよ
この遠い道程のため
この遠い道程のため

いつの時代でも変わらないのは、若者たちのエネルギッシュな生き生きとした動きです。そして、何かに向かって頑張ろうとする前向きの姿勢です。喜久田中学校の生徒に私が一番期待しているのは、そんな積極的な姿です。あと１ヶ月あまりを、３年生は、自分の進路に向かって最大限の努力をすると共に、皆さんの持っている前向きな姿勢を後輩たちに引継ぐことに精力を注いでください。それができるのは、私たち教師集団ではなく、生徒の皆さんのみなのです。